



読売日本交響楽団正指揮者

下野 竜也

TATSUYA SHIMONO

柔らかな響きと落ち着いた空間。

読響の初代正指揮者として、またマニアックなプログラミングにおいても人気の高い下野竜也。

リニューアルしたホールで、柔らかな響きを実感した

マエストロ下野の視点から捉える芸劇における音楽の可能性とは。

1990年のオープン以来初の大規模改修工事を終え、2012年9月1日、18カ月ぶりに開いた東京芸術劇場。大ホール(コンサートホール)は下野竜也指揮の読売日本交響楽団、ソプラノの小川里美、メゾソプラノの清水華澄、地元・豊島区の東京音楽大学合唱団によるマーラーの「交響曲第2番『復活』」の記念演奏会で再開を飾った。下野が正指揮者を務める読売日響はかねて東京芸術劇場と提携関係にあり、今後もチャイコフスキー後期交響曲チクルスなど、多彩な企画を予定する。まずは9月1日本番直前の下野にリニューアル

の手応えや、これからの展望などを聞いた。

——新装となって、音響に変化は。

全体的にマイルド、柔らかな響きが変わったと思います。残響も増えました。以前の響きはすごくシャープでしたから、よく注意しないと、エッジが固くなりすぎたまま後ろに飛んで行った気がします。もう一つは、低弦(チェロやコントラバス)の音が指揮台にいて、以前より良く聴こえるようになりました。お客様で客席が埋まった段階で、どのような響き方をするのか、とても興味がありますね。

——見た目の印象は。

壁面にたて格子が入り、全体でも木材の比重が上がりました。客席の椅子の張り地が同系色に統一されたので、指揮者からの見た目も落ち着いたかな。反響板の位置や向きが変わりました。ステージの木材はすべて張り替えられ、真新しさの魅力も今はあります。さらに客席を1列削り、舞台の奥行きを90cmほど前に広げた結果、(オーケストラと指揮者より前に楽器を置いて演奏する)ピアノ協奏曲なども、やりやすくなるのではないかと期待しています。

——ホールに見合った演目や企画の方向性は? 東京都の建物ではありますが、交通網から見れば、埼玉県への玄関口にも当たります。平日の夜だけでなく、週末のお昼に池袋のターミナルへ集まる広い範囲の人々に向け、名曲を並べるだけにとどまらないプログラミングへ舵をきっていく可能性も大きいですね。クラシック音楽の枠を超え、俳優やダンサー、他ジャンルの歌手といったアーティストを交えたパフォーマンスをコンサートホールで繰り広げる、プレイハウス(中劇場)でアンドレ・プレヴィン作曲の『欲望という名の電車』のような室内オペラを上演する……などなど。オーケストラが主役にしゃしゃり出ない演目があっという間に、と考えると、複数のステージを俯瞰した相乗効果はこれから、究められていくでしょう。

——リニューアルオープン記念演奏会の曲目がマーラーの「復活」交響曲に決まった経緯は?

最初はベートーヴェンの『交響曲第9番・合唱付き』という声もありました。1990年のオープニングシリーズの一環でジュゼッペ・シノーポリ指揮フィルハーモニア管弦楽団のマーラー・ツィクルスが行われたためこの曲に落ち着いたようです。

——ふだんは日本人作曲家に限らず、近現代の珍しい楽曲への傾倒が目立ちますね。もう、マニアック指揮者と呼ばれるのには慣れました(笑)。興味をもって下さるだけでも、うれしい。日本の指揮者の中で私は広上淳一、大野和士、大友直人、佐渡裕ら10歳上の諸先輩方、川瀬賢太郎、山田和樹、三ツ橋敬子ら10歳下の後輩の皆さんの中間に位置し、金聖響、西本智実さんたちと同世代。自分との接点は余りなかったけれども、最初にプログラミングの面白さを意識したのは、かつて読売日響の常任指揮者時代に『初演魔』の異名をとられた若杉弘先生の仕事ぶりに触れた時です。僕が正指揮者に就いた時点でも、クラシックの名曲は内外のマエストロたちが定番として振られるので、自分なりの斬新な

ています。

——東京芸術劇場のお客様に向け、今後へのメッセージを。

現代曲の指揮には体力も必要なので、若いうちから頑張った反面、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンら古典派への備えを怠ってきたわけはありません。自分が何歳まで生きて、どう変化していくかまでは読めませんが……。少しずつ定番の名曲とのバランスをとりながら、広い意味での『よい音楽』を様々なオーケストラ、共演者ともに奏でていきます。どうか何度でも、聴きにいらしてください!

——ありがとうございました。

聞き手:音楽ジャーナリスト 池田卓夫

“マニアック指揮者” と呼ばれて(笑)

曲目を考えざるを得ませんでした。徐々に認められ、東京都交響楽団や日本フィルハーモニー交響楽団など、他のオーケストラへの客演でも受け入れられるようになったのは幸いです、感謝!



下野 竜也 2006年より読響・初代正指揮者に就任し、以後意欲的な活動で高い評価を得ている。1969年鹿兒島生まれ。97年から99年まで、大阪フィルの初代指揮研究員として朝比奈隆らの下で研鑽を積み、2000年東京国際音楽コンクール(指揮)優勝と藤原秀雄賞受賞、01年プザンソン国際コンクール優勝。国内の主要オーケストラに招かれる

一方、チェコ・フィル、シュトゥットガルト放送、ローマ・サンタチェチーリア管、ミラノ・ヴェルディ響、ストラスブール・フィルなどと共演。10年12月、サイトウ・キネン・オーケストラを指揮して、ニューヨーク・カーネギーホールに登場。11年4月、南西ドイツ・フィルにデビュー。07年から上野学園大学音楽学部教授。11年1月、広島ウインドオーケストラ音楽監督に就任。

巨匠が厳選した15曲 《珠玉の小品集》

第199回 東京芸術劇場名曲シリーズ

11月25日 [日] 18:00開演 コンサートホール

指揮:ラファエル・フリーベック・デ・ブルゴス

|曲目|
グリーグ/「ペール・ギュント」第1組曲から「朝」「アニトラの踊り」
ワーグナー/楽劇「ニュルンベルクのマイスター・ジンガー」第1幕への前奏曲
ファリャ/「恋は魔術師」から「パントマイム」「火祭りの踊り」
マスカーニ/歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」間奏曲
ビゼー/「アルルの女」組曲から「メヌエット」「ファランドール」 ほか

下野竜也が振る 《渾身のブルックナー》

第202回 東京芸術劇場名曲シリーズ

2013年2月20日 [水] 19:00開演 コンサートホール

指揮:下野竜也 |曲目|ブルックナー/交響曲 第5番 変曲長調

.....

チケット料金 |【全席指定】 S席:7,000円 A席:5,000円
B席:4,000円 C席:3,000円

お問合せ |読響チケットセンター
03-3562-1550(10:00~18:00土日祝除く)

主催:読売新聞社/日本テレビ放送網/読売テレビ/読売日本交響楽団



ラファエル・フリーベック・デ・ブルゴス



下野 竜也